

<<令和8年度 湯 浅 町 幼 児 教 育 目 標>>R8.7.1現在

『ふるさと湯浅』を意識した幼児教育を展開します。
そして、遊びを見つけ、遊びこむ中で、次に掲げる『体・徳・知』のバランスを意識した教育を行います。

『体』・・・すこやかな生活の芽を育てます。

重点	I	認められたり友達と支え合ったりする経験を通して、自分の良さに気付き、自信をもって行動する。
	II	危険な場所や危険な遊び、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。
	III	友達と一緒に、戸外での遊び(鬼ごっこやボール遊び、散歩など)をのびのびと楽しむ。

『徳』・・・豊かなかかわりの芽を育てます。

重点	I	自分の思い通りにいかない時など、我慢したり折り合いをつけたりして、気持ちを切り替える。
	II	友達と遊びのイメージを共有し、自分の思いや考えを言葉で伝えたり、相手の話を聞いたりして遊ぶ。
	III	伝統的な行事や伝承遊びなどを通じて、地域の人・もの・ことと触れ合い、自分たちが住む地域に親しみをもつ。

『知』・・・主体的な学びの芽を育てます。

重点	I	主体的に遊びを見つけ、遊びに没頭する。
	II	遊びや生活の中で、数量・長短・大小・図形の特徴などに関心をもち、必要感をもって数えたり、比べたり、組み合わせたりする。
	III	感じたり考えたりしたことを様々な方法で表現し、創造的な活動(制作や表現、演奏、劇遊びなど)を生み出す。

＊重点は、それぞれ県例示を参考に、年度毎に見直す。

[以下、県例示(令和元年度)の文章と、別添 保育援助具体例を参照 ○印は本年度の重点]

すこやかな生活の芽『体』	I 自分のことは自分で～みにつけよう～	1	衣服の着脱、食事、排泄、後片付けなど、生活に必要な活動を自分でする。
		(2)	自分たちの活動に見通しをもち、1日の生活の流れや、時間を意識しながら行動する。
		3	困ったときに自分で考えて解決しようしたり、保育者や友達に相談したりして、最後までやり遂げようとする。
		④	認められたり友達と支え合ったりする経験を通して、自分のよさに気付き、自信をもって行動する。
	II 健康で安全な生活～げんきいっぱい～	5	健康な生活や病気の予防に関心をもち、手洗い・うがいなど、生活に必要な習慣を身に付ける。
		⑥	危険な場所や危険な遊び、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。
		7	栽培・収穫・簡単な調理などを通して、食べ物に興味をもち、友達と一緒に楽しんで食べる。
	III 目標をもって運動～すすんでのびのびと～	8	走る・とぶ・投げる・押す・握るなど、体を動かす活動を楽しむ。
		⑨	友達と一緒に、戸外での遊び(鬼ごっこやボール遊び、散歩など)をのびのびと楽しむ。

豊かなかかわりの芽『徳』	I 人やものとの関わる力～どうすればいいのかな?～	1	してよいことと悪いことが分かり、きまりを守って行動する。
		2	身近な人々(友達や異年齢児、高齢者など)との関わりを深め、思いやりをもったり自分が役に立つ喜びを感じたりする。
		③	自分の思い通りにいかない時など、我慢したり折り合いをつけたりして、気持ちを切り替える。
		4	友達と活動する中で、共通の目的を見出し、一緒に活動することを楽しむ。
		5	身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることをもち。
	II 思いや考えの伝え合い～みて、きいて。いっしょにやろうよ～	6	生活の場に応じた言葉の使い方や表現の仕方が分かり、進んで使う。
		(7)	保育者や友達の言葉や話に興味・関心をもち、聞こうとする。
		⑧	友達と遊びのイメージを共有し、自分の思いや考えを言葉で伝えたり、相手の話を聞いたりして遊ぶ。
		9	遊びや生活に必要な情報を活用したり、伝え合ったりする。
	III 地域社会への親しみ～つながろう～	⑩	伝統的な行事や伝承遊びなどを通じて、地域の人・もの・ことと触れ合い、自分たちが住む地域に親しみをもつ。
		11	地域の施設(近隣の学校、福祉施設、公園、店、駅など)を訪問したり活用したりして、社会とのつながりに関心をもつ。

主体的な学びの芽『知』	I 身近な環境への興味・関心	①	主体的に遊びを見つけ、遊びに没頭する。
		2	自ら身近な事象に関わる中で、物の性質や仕組みなどに気付き、試したり、工夫したりして生活や遊びに活かす。
		3	草花や木の実などの自然の素材や、雨、風、などの自然を遊びの中に取り入れ、その素晴らしさや不思議さに気付いたり、感動したりする。
		4	動植物に親しみをもつて接し、育て方や飼いを調べる活動を楽しむ。
	II 文字や数量への豊かな感覚～しりたいな、つたえたいな～	5	遊びや生活の中で、文字に興味をもち、文字を使うことや、友達に伝えることを楽しむ。
		(6)	絵本や物語、言葉遊びなどに興味をもち、言葉やイメージが豊かになる。
		⑦	遊びや生活の中で、数量、長短、大小、図形の特徴などに関心をもち、必要感をもって数えたり、比べたり、組み合わせたりする。
	III イメージ豊かな表現～たのしいな～	8	美しいものや心を動かすことに出会い、「やってみたい」「まねしたい」「歌いたい」「踊りたい」「つくりたい」「飾りたい」などの意欲をもつ。
		⑨	感じたり、考えたりしたことを様々な方法で表現し、創造的な活動(制作や表現、演奏、劇遊びなど)を生み出す。

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿(国)

1歳～5歳
5領域

乳児期
3つの視点

健康	明るくのびのびと行動し、充実感を味わう。 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しを持って行動する。
人間関係	こども園の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。 身近な人と楽しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に生活する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。
環境	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で、様々な事案に興味や関心を持つ。 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。 身近な事案を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。
言葉	自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。 日常生活に必要な言葉が分かるようになってとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育士等や友達と心を通わせる。
表現	いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を持つ。 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

ア 健やかにのびのびと育つ

イ 身近な人と気持ちが通じ合う

ウ 身近なものに関わり、感性が育つ